

国際交流センター長表敬



支援を行う。さくらサイエンスプランでは、ABP開始に先立ち、招聘する高校生が工学部、情報学部、農学部、理学部(理系)における勉学・研究を知り、日本の科学技術に関心を持ち、自身の将来の進路について考へる機会を提  
供し、静岡大学への留学を強く勧めることを目的として実施した。

平成27年度から開始のABPに関心を持つてもらうため、複数の研究室訪問を通して、静岡大学の教員・学生と交流し、静岡大学での大学生生活を多面的にイメージできるよう工夫の招聘した。訪問した研究室では、インドネシアができ、高校生から多くの質問が飛び出したこと、日本人学生と留学生が協力して研究したこと、インドネシアと深い関わりのあること、

アジアとのブリッジ人材育成のための高校生招聘

静岡大学では、日本企業が多く進出しているインドネシア、タイ、ベトナム、インドから直接学部1年生として入学するプログラム(アジアブリッジプログラム(ABP))、<http://www.abp.jcsu.shizuoka.ac.jp/eng/>を平成27年10月より開始する。アジア地域から優秀な留学生を受入れ、母国の産業の発展に貢献できる技術力を身に付けさせること、海外進出している日本企業に必要な人材に育成することを目的とするプログラムである。静岡大学は、留学生を受入れて教育する体制を整え、地域と一体となって生活面、経済的な支援を行う。

静岡大学国際交流センター長表敬 拝田麻里(国際交流センター准教授)



拜田麻里(国際交流センター准教授)

プログラム	
1日目	来日
2日目	静岡大学国際交流センター長訪問 静岡大学農学部・教育学部研究室見学
3日目	静岡大学学生と交流(静岡市安倍川花火大会)
4日目	浜松科学館訪問 浜松市内観光
5日目	浜松市役所訪問 静岡大学工学部研究室見学
6日目	県立浜松工業高校訪問 静岡大学情報学部研究室見学
7日目	SUZUKI訪問 高柳記念未来技術創造館見学、浜松インドネシア友好協会と懇親会
8日目	次世代ものづくり人材育成センター見学
9日目	帰国

II特別シリーズII  
科学技術振興機構『さくらサイエンス・プラン』友情と感激 第8回

る研究が進められていることを紹介することができた。

10名という少人数での訪問であつたため、静岡大学の教員、学生と親しく言葉を交わしながら研究内容の紹介を受けることができ、静岡大学が進学先として有望であることを高校生に印象づけられた。ただ、招聘した高校生は、まだ興味の対象が絞りきれていらず、彼らの関心に完全に合致した分野の研究室訪問計画を立てることができなかつたのが反省点である。一方で、訪問を受けた研究室では、B I N U S の生徒たちの勉学意欲の高さと優秀さを目の当たりにし、海外の高校に対する関心を高められたことが大きな成果である。

留学において大学での勉学は重要だが、地域で一市民として過ごす時間も同じぐらい重要なである。浜松市は、ホンダ・ヤマハ・スズキ、河合楽器、ローランドなど、世界企業の発祥の地であり拠点である。スズキ歴史館、高柳記念未来技術創造館は英語での解説により展示内容をよく理解することができた。イ

ンドネシアは、日本の電気製品が多く出回つておらず、またスズキの海外生産拠点国でもあるので、大学での研究内容がどのように産業に貢献するか高校生は高い関心を持つて展示を見学した。

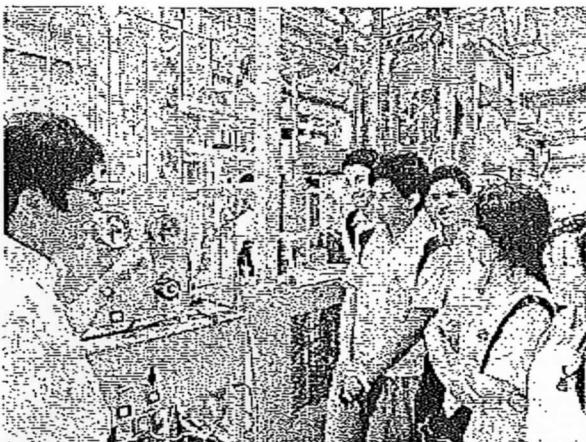
また、浜松インドネシア友好協会との懇親会によつて、高校生は浜松市とインドネシア人が地域に温かく受け入れられることを実感したようだ。引率の教育担当副校長が地域とともに理解してもらえたことは、日本への留学を考える大きな要素となつたと思われる。留学生の受け入れに前向きであることを生徒とともに理解してもらえたことは、日本への留学を考える大きな要素となつたと思われる。



「スズキ」を見学



工学部研究室を見学



農学部研究室を訪問

友好協会との懇親会

友を海外の高校で最も有効交換できる機会を提供していくことを考えたいと考えています。